



あいなん逸品図鑑 その52



「コシヒカリ」

生産者

森口 ^{ひてき} 英樹さん (御荘長月)



愛媛
CATV
動画

愛南町では温暖な気候を生かした水稻の早期栽培に取り組む農家が多く、約340軒の農家がコシヒカリを栽培しています。3月下旬から田植えが始まり、お盆ごろには稲刈りの最盛期を迎え新米が食べられます。香りが高く、甘みと粘り気の強さがコシヒカリの特徴です。

5年前に父から田んぼを引き継いで就農した森口さんは近隣農家の高齢化によるリタイア農地や、先輩農家から紹介された農地を借り受け、現在は7ヘクタールの水田でコシヒカリを栽培しています。コシヒカリは『いもち病』に弱く出穂時期の防除が欠かせませんが、一斉にラジコンヘリで防除を行うことで省力化が図れています。あぜの草刈りは基本的に1人で作業しているものの、雑草の勢いに追い越されそうなときには父と協力して草刈りを行うなど、稲刈りまでの間は農地周りの管理も欠かせません。

コシヒカリをはじめ、他の品種や飼料用米などを合わせると全体で11ヘクタールもの栽培面積があり、10月上旬まで稲刈りは続きます。冬場には裏作でブロッコリーも栽培していますが、ブロッコリーを収穫した後の田んぼにコシヒカリを作付けすると栄養過多となり倒伏しやすくなるため、「それぞれの品種が最もいい状態で育つよう、田んぼの性格を見極めながら作付けの計画を立てていく必要がある」と話しました。

「米の価格低下や肥料など資材費の高騰により、全国的に大変な思いをしている農家も多いと思う」と苦勞を話す反面、「自分のお米を食べた人からおいしいと言ってもらえた時に一番のやりがいを感じる」と笑顔を見せます。

『うちの田んぼも作ってくれんかな』と地域の方からの厚い信頼を受け、既に来年度も面積を拡大する予定となっている森口さん。「効率的に米作りができるよう機械の大型化なども視野に、来年もおいしい米を作っていきたい」と意欲を見せました。



▲コシヒカリの稲刈り終盤の8月下旬
コンバインが田んぼを駆け抜けます



▲天候に恵まれ一粒一粒が立派な仕上がり



▲コンバインから排出される籾
軽トラで倉庫に運搬し乾燥機に投入します